

コード	101020104
記入日	H23.6.9

事務事業途中評価表

課コード	117
課名	観光物産課
課長名	中島 紀昌
担当者	江山 清博

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	イベント事業費
----------	---------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	1	政策名称	にぎわいを創る地域交流の促進	款コード	7
施策コード	101	施策名称	魅せる観光のしまづくり	項コード	1
基本事業コード	10102	基本事業名称	新たな観光資源の開発とネットワーク化の推進	目コード	3
事務事業コード	1010201	事務事業名称	観光振興事業費	細目コード	140
関連計画	法令・条例規則等		新上五島町補助金等交付規則 新上五島町商工観光振興奨励事業費補助金交付要綱		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1)	一般観光客及びツアー観光客	(対象指標1)	197,591人			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・ 季節毎のテーマで旅行会社等へ誘致活動ができるイベントを行った。 1.ほたるのふるさと相河川まつり (5/25 ~ 6/25) 2.蛤浜で遊ぼうデー & 白砂の芸術祭 (7/18) 3.上五島教会めぐりウォーク & クルーズ (10/9 ~ 10/10) 4.チャーチウィーク教会コンサート (12/7 ~ 12/12)	① 開催日数 (達成率分析)	41日	88%	開催日数36日+計画した開催日数41日×100	***** 平成22年度
		② 会議開催回数 (達成率分析)	4回	100%	会議開催回数4回+計画した会議開催回数4回×100	***** 平成22年度
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
	・ 上五島の「四季」に焦点を当て、海・教会・五島うどんなどを活かして地域の魅力向上を図るイベントを実施することにより、上五島の魅力を島外へ広く発信し、集客力の向上・食の魅力の定着と消費拡大を図り、ひいては賑わいの創造と交流人口の拡大を目指したい。	① イベント集客数 (達成率分析)	7,374人	85%	イベント集客数7,374人+目標集客数8,700人×100	***** 平成22年度
		② (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 日	133	128	92	41	36				
	② 回	23	23	19	4	4				
成果指標	① 人	38,314	36,988	29,614	8,700	7,374				
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	133,837	133,396	101,257	32,580	32,139				
直接事業費 A	千円	22,537	22,096	16,557	5,980	5,539				
人件費 B	千円	111,300	111,300	84,700	26,600	26,600				
内訳	従事職員数	人	15.9	15.9	12.1	3.8	3.8			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円								
	県補助金	千円	20,283	19,886	14,901	5,382	4,985			
	起債	千円								
	その他	千円								
一般財源	千円	113,554	113,510	86,356	27,198	27,154				

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	観光事業は、これからの主要産業として必要不可欠である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	世界遺産の暫定リストに本町から二つの教会が登録されるなど、これからの観光地として注目を集めているため、事業を行う必要がある。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	町の特性を活かした島外への情報発信イベントとして適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	島外からの観光客は増加傾向にあり、十分な成果もたらされている。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	イベント参加者の声を参考にするなど、ツアー行程やイベント内容を改善する余地がある。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	島外へ向けた観光イベントとしてのツールがなくなり、知名度向上につながらない。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	本町の特性を活かした事業であり、整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	これからの主要産業のひとつとして外貨を稼ぎ、地域経済を活性化するためにも直接事業費の削減はできない。
	・人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	削減できる人件費はない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	参加者からは適正な費用を徴収している。

改善

改善策	1次評価	妥当性	本町は、「明日の世界遺産に出会う島・上五島」を観光振興ビジョンのテーマに掲げており、その実現のためにも地域の特性を活かしたイベントを実施する必要があるため、妥当である。
		有効性	さまざまなイベントをとおして町民総参加による観光振興を図り、また、島の特色を活かした情報発信を行うことで質の高い交流人口の拡大を図ることができる。
		効率性	今後のさらなる集客増加に向け、現行のイベントに磨きをかけるほか、受け皿となる宿泊施設等のサービス向上やガイド員の技術向上を行う必要がある。
		課題に向けた改善策	イベント集客数が目標数値を達成しなかった原因としては、野外でのイベントが天候に左右されたものと考えられる。今後の課題として、さらなる集客のための情報発信の強化、イベント内容の充実と最大の観光素材となる観光客と地元住民の交流の強化を図りながら観光振興を目指す。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	イベント集客数は目標数値に達していないため、今後は情報発信の強化や迎える側の質の向上に努め交流人口の拡大を図ること。
		効率性	町外から観光客を入れるにも、迎える側の質の向上も課題である。関係団体と密に協議を重ね、効率性、有効性を追求しつつ事業展開を図ること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。